

## 【特別推進研究】

# 人文・社会系



## 研究課題名 世代間問題の経済分析：さらなる深化と飛躍

一橋大学・経済研究所・特任教授

たかやま のりゆき  
高山 憲之

研究分野：社会科学、経済学

キーワード：世代間、衡平性、年金、雇用、医療、介護、子育て、財政赤字、技術革新

### 【研究の背景・目的】

近年、世代間で利害が対立する問題（年金・医療・雇用・子育て・教育・技術革新・赤字財政・地球温暖化など）が続出している。人口高齢化が進んだり人口が減少したりすると、世代間対立はますます先鋭化するおそれ大きい。世界の各国は場当たりのともいえる対応に追われており、強大な政治力を有する高齢者に過大な所得再分配が行われ、それによってもたらされる資源配分上の悪影響を心配する声も多い。さらに世代間問題は、それぞれが重層化している側面も少なくない。ただ、世代間問題をめぐる研究の進展状況は今のところ十分でない。問題の設定そのものが比較的新しい一方、関連するデータがほとんど蓄積されていないからである。

本研究では、経済理論を駆使して世代間問題の本質をえぐりだす一方、「暮らしと健康に関する第3回パネル調査」(JSTAR) および青壮年層を対象とする新たな「雇用と子育てに関するパネル調査」(*Longitudinal Survey on Employment and Fertility*)をはじめとする調査を複数実施し、世代間問題の内実を的確に把握する。そして世代間対立を世代間協調に転換するための政策を具体的に提言することを目的とする。

### 【研究の方法】

個別課題ごとに研究班を編成し、理論的研究と実態調査に取り組む。さらに、連携研究会を定期的に開催し、メンバー相互の連携を深めながら、研究を推進する。

### 【期待される成果と意義】

- ・ 将来世代の可塑性に着目した地球温暖化・代理懐胎問題の解明
- ・ 最低保障年金の具体的設計、所得比例年金の再構成、非正規労働者への年金適用、年金制度管理・運営体制の抜本的見直し
- ・ 雇用機会をめぐる世代間対立を世代間協調に転換するための具体的アイデア提示
- ・ 有効な高齢者活用策の企画立案
- ・ 子供の貧困問題克服のための制度設計
- ・ 医療・介護をめぐる公的保険再構成のための具体案提示
- ・ 政治的実現可能性が高い財政再建策の提示
- ・ 少子高齢化社会における技術革新誘導制度の提唱と新たな投票制度の考案

### 【当該研究課題と関連の深い論文・著書】

- ・ Takayama, N. and Werding, M. eds., *Fertility and Public Policy*, MIT Press, forthcoming.
- ・ Genda, Y., Kondo, A. and Ohta, S., "Long-term Effects of a Recession at Labor Market Entry in Japan and the United States," *Journal of Human Resources*, forthcoming, 2010 winter.
- ・ 高山憲之『年金と子ども手当』岩波書店、2010年。
- ・ Holzmann, R., Robalino, D. and Takayama, N. eds., *Closing the Coverage Gap: the Role of Social Pensions*, World Bank, 2009.
- ・ Aoki, R. and Spiegel, Y., "Pre-Grant Patent Publication and Cumulative Innovation," *International Journal of Industrial Organization*, 27(3), 2009, pp.333-345.
- ・ 鈴木興太郎『厚生経済学の基礎——合理的選択と社会的評価——』岩波書店、2009年。
- ・ Bossert, W. and Suzumura, K., "A Characterization of Consistent Collective Choice Rules," *Journal of Economic Theory*, 138, 2008, pp.311-320.
- ・ Hara, C., Shinotsuka, T., Suzumura, K. and Xu, Y., "Continuity and Egalitarianism in the Evaluation of Infinite Utility Streams," *Social Choice and Welfare*, 31, 2008, pp.179-191.
- ・ Hanaoka, C. and Norton, E.C. "Informal and Formal Care for Elderly Persons: How Adult Children's Characteristics Affect the Use of Formal Care in Japan," *Social Science & Medicine*, 67(6), 2008, pp. 1002-1008.
- ・ Roemer, J. and Suzumura, K. eds., *Intergenerational Equity and Sustainability*, Amsterdam: Palgrave, 2007, 256p.

### 【研究期間と研究経費】

平成22年度－26年度

459,500千円

### 【ホームページ等】

<http://www.ier.hit-u.ac.jp/pie/stage2/Japanese/>